

## 日本未熟児新生児学会 平成22年度 評議員会 議事録

日 時：平成22年11月5日（金）11：50～12：50

場 所：神戸国際会議場 3階 国際会議室（第2会場）

## 議 事

## I. 報告事項

## 1. 理事長報告

## 1) 韓国新生児学会交流の件

学術集会第1日，11月5日15：45～16：30に第1会場にてRan Namgung先生に‘Rickets of Prematurity in Korea’のタイトルでご講演いただく。来年春の春季韓国新生児学会では，来年度会長の楠田 聡先生にご講演をお願いする。

## 2) 役員選挙について

告示日11月8日（月）/投票締め切り12月1日（水）/開票12月2日（木）午後3～6時として役員選挙を行う。評議員会・総会で承認された次期評議員211名の中より15名の理事，2名の監事を選出し，年内または年明けに新理事会を行う予定。選挙管理委員会は和田紀久評議員（委員長），市場博幸評議員，平野慎也評議員（委員）の3名。

## 3) 産科医療補償制度に係る今後の産科医療の質の向上に向けて

（財）日本医療機能評価機構より標題の文書が届いた。平成21年1月に発足した産科医療補償制度は，今年10月現在ですでに76件の児につき補償対象として認定を行っている旨報告があった。

## 4) 厚生労働省よりSIDS対策強化月間について連絡があった件

厚生労働省から「SIDS対策強化月間（11月）の実施について」通知があった。

## 5) 委員会活動費について

今年度の委員会活動に関わる支出について事務局へ申告するよう指示があった。

## 6) 文献許諾使用料の件

メテオ社の7～9月の文献使用料は合計1,680円（今年度合計3,097円）。支払い金額が税込みで10,500円を超えた時点で指定口座に振り込まれる。

## 7) SGA性低身長症におけるGH治療の実施上の注意改訂の件

日本小児内分泌学会と日本未熟児新生児学会が合同で公表している「SGA性低身長症におけるGH治療の実施上の注意」が在胎期間別出生時体格標準値の一部改訂に伴い，パーセントイルとSDの値を修正した報告があった。

8) ビタミンK<sub>2</sub>シロップ投与の実態調査について

厚生労働省に文書を送付し，8月24日に伊藤委員長と板橋理事が厚生労働省との話し合いが行われた旨報告があった。

## 9) PIVKA-IIワーキンググループ設置・委員会開催について

ビタミンK欠乏性出血症の診断薬，ピブカルテストの出荷停止に伴うPIVKA-IIテスト試薬への移行に関する件で，奈良県立医科大学の高橋先生を委員長としてワーキンググループを立ち上げた。12月10日に委員会を開催予定である。

## 10) 感染対策・予防接種推進室の設置について

本学会内に感染対策・予防接種委員会を設けて欲しいとの提言があり，委員会ではなく，理事長直下の対策室をつくって迅速に対応できる部署を作ってはどうかとの提案があり，感染対策室・予防接種室として

室長を北島先生にすることで承認された。

11) 寄付の件

3月31日に藤村理事・田村理事より「改訂2版 新生児慢性肺疾患の診療指針」の印税57,000円を総会補助金口座に寄付していただいた。また、9月30日に同書の印税19,930円が学会賞基金口座に振り込まれた。

2. 会長挨拶（船戸会長）

大阪とゆかりの深い学会であり、NMCS（新生児診療相互援助システム）の協力が多大であったことが話された。懇親会でのミニコンサートを楽しんでいただきたい、また、若手医師にMeet the professors、若手セミナーへの参加を勧めていただきたいと呼びかけられた。

3. 庶務報告（本間幹事）

1) 新入会者、退会者の件

会員数（全会員数3,173名、名誉会員22名、功労会員43名）、新入会員295名、退会204名について報告が行われた。新入会員が増え、退会者は減っている。物故会員・松本憲則先生に黙祷を捧げた。

2) 会費滞納者の件

資料に基づき資格喪失退会者89名（平成21年報告数：81名）について報告された。平成20年以降会費が未納で、2月請求後、9月に再請求を行ったが、10月末現在振込が確認されていない。12月末日までに振込が無い場合には資格喪失退会となる。

4. 各種委員会報告

1) 日本未熟児新生児学会賞選考委員会（戸荻委員長）

6月に学会賞選考委員会を開催した結果、平成21年度日本未熟児新生児学会賞受賞論文が決定し、第2回理事会にて承認された。受賞者の松村寿子先生には、午後1時30分から第1会場で講演を行っていただく。

2) フェロシップ選考検討委員会（戸荻委員長）

- 今年度のAJフェロシップ採用者20名（21演題）について資料に基づき報告があった（昨年は38名）。該当演題には抄録集・プログラム集の中に★印をつけ、採用者は懇親会会場および演題発表時には「AJフェロシップ」と書かれた赤い名札を着用する。温かい声かけが呼びかけられた。
- 今年度の佐多フェロシップ採用者、高寺明弘先生が午後1時50分から2時までメインホールにて「英国留学で得たもの」と題して留学体験記をお話いただく。

3) 雑誌編集委員会（堺委員長）

平成20～22年の原著論文および査読状況について報告があった。今年は24編の原著が受付され16編がすでに受理されている。また、23巻1号の掲載予定内容についても報告があった。また、査読結果を迅速にお戻しいただきたい旨依頼があった。

4) 教育委員会（田村委員長）

8月26～28日香川県琴平市で開催された第14回教育セミナーは無事に終了した旨報告があった。第15回は長野で行う予定である。例年、受講者を50名にしているが、来年は60名に増やし、参加費35,000円を大幅に値下げする予定である。講師については、教育委員会で検討し、依頼書を送付予定である。

5) 社会保険委員会（小泉委員長）

平成24年の診療報酬改定に向けてのスケジュールが決定した。新生児搬送料、NICU加算の日数をアップなど、改定への要望があれば小泉委員長へ連絡するよう報告があった。

6) 薬事委員会（伊藤委員長 代・戸荻理事長、新生児の輸血問題小委員会：小山委員長）

理事長より、MSD（株）に確認したところ、インドメサシンの供給に関して、日本での供給については問題ないとの回答があった旨報告があった。

新生児の輸血問題小委員会からは、合成血の組成、有効期限について日本赤十字社より学会に打診があった旨報告があり、2単位の赤血球に対して120mLの凍結血漿で作成すること、有効期限を48時間とすること、また、カリウム濃度に関しての説明があった。

7) 医療器材の安全性確認委員会（本間委員長）

医療器材の安全性に関する情報収集と周知に関して学会ホームページの会員専用ページを利用したシステム構築を検討中であることが報告された。

8) サーベイランス委員会（山内委員長 代・戸苺理事長）

現在はTAMの調査が行われていることが伝えられ、希有疾患サーベイランスの登録をお願いしたい、申請方法簡略化を検討中であることが報告された。

9) 規約改定委員会（宇賀委員長 代・戸苺理事長）

法人化の方向性を検討中であることが報告された。

10) 学術集会の在り方検討委員会（三科委員長）

昨年の学術集会に関するアンケートが学会ホームページに公開されているため、見ていただきたい。また、今回は学会終了後web上でアンケートを行う予定であることが報告された。

11) 広報委員会（堀内委員長）

現在リニューアル作業を行っている。今後、会員専用ページを作る予定で、その中で、住所変更も可能になる旨報告があった。テストページを公開しているので見ていただきたい旨報告があった。また、今年の学術集会抄録集をPDFでダウンロード可能であることが報告された。

12) 倫理問題検討委員会（船戸委員長）

田村班で作られた重症新生児に関する話し合いのガイドラインを再検討していきたい。また、新生児蘇生のガイドラインの倫理問題に関する項目の検討を予定している旨報告があった。

13) 医療の標準化検討委員会（楠田委員長）

PDAガイドラインを学会誌に掲載した旨報告があった。また、「周産期医療の質と安全の向上のための戦略研究」に向けたフェジビリティ研究に関しての協力が呼びかけられた。6つの診療ガイドラインに沿って診療した場合の効果の検証であり、診療ガイドラインに関しての広く意見を求め、確定していきたいとのことで、11月28日に東京で総意形成会議を開催予定である。

14) 医療提供体制検討委員会（梶原委員長）

いわゆる正常新生児の取り扱いに関する諸問題の解決のために明日、特別シンポジウム開催予定。その中でガイドラインの原案も含めて発表予定である。いつ急変するかわからない新生児の実態報告とその取り扱いについて話し合われるため、ぜひご参加いただくよう呼びかけがなされた。

15) 感染対策・予防接種推進室（北島室長）

昨年の新型インフルエンザ流行時に本学会から発信できなかったため、それを踏まえて、本室を新設した。約20名の委員で構成されている。学術集会では特別発表を予定している。いずれガイドラインとしてまとめたいとの報告があった。

16) その他

- 「周産期医療の質と安全の向上のための戦略研究」に向けたフェジビリティ研究について（楠田理事）  
来年度から開始予定のため資料を一読してほしいとの呼び掛けがあった。資料は学会ホームページでも公開している。

- 17 $\alpha$ -ヒドロキシprogesterone（17OHP）受託検査停止への対応（楠田理事）

RIAによる検査ができなくなり、再開予定のめどがたっていない。濾紙血での対応をしてもらいたいと

の要望が出された。

• 周産期センター施設調査結果（楠田理事）

今年、周産期センター施設調査を行い、各総合・地域周産期母子医療センターの点数をつけた。その結果が出たが、今年度の診療報酬に反映はさせない予定である旨報告された。

• 診療報酬影響調査〈厚生労働省、小児科学会〉（楠田理事）

厚生労働省として初めて、周産期の診療報酬影響調査を行うこととなった旨報告があった。

## II. 協議事項

1) 平成21年度決算に関する件（本間幹事）

本間幹事より資料に基づき説明が行われた。仁志田監事・安次嶺監事による監査報告の後、総会で承認を得ることとなった。

2) 平成23年度予算に関する件（本間幹事）

資料に基づき本間幹事より説明・報告が行われた。総会において承認を得ることとなった。

3) 新・名誉／功労会員の件

理事会で承認された、著名な先生方の退任につき、残念であるがお認めいただきたい旨理事長より呼びかけがあり、承認を得られた。

新名誉会員：安次嶺 馨監事，仁志田博司監事，小泉武宣理事，藤村正哲理事，堀内 勁理事，山内芳忠  
理事

新功労会員：宇賀直樹理事，三科 潤理事，須永 進評議員

4) 次期評議員の件

次年度新評議員211名について理事長から報告あり承認された。

5) 次期会長に関する件

理事会において、次期会長に楠田 聡先生が選出された旨報告があり、承認された。楠田次期会長より挨拶があり、2011年11月13日から15日まで、東京国際フォーラムで予定である旨報告された。

6) 次期副会長に関する件

理事会において次期副会長近藤裕一先生が選出された旨報告があり、承認された。近藤副会長より挨拶があった。